

県医活動報告

女子医学生，研修医等のためのシンポジウム

報告：大分県医師会女性医師の会会長 谷口 邦子

平成23年3月5日(土) 大分大学医学部臨床中講義室で開催された。
総数42名の参加で男性もかなり見受けられた。

女子医学生，研修医等のためのシンポジウム

と き 平成23年3月5日(土) 14時半
ところ 大分大学医学部臨床中講義室

1. 開 会

2. 挨拶 大分県医師会会長 嶋津 義久
大分県医師会女性医師の会会長 谷口 邦子

3. シンポジウム

座 長 大分県医師会女性医師の会副会長 安武 千恵
大分県医師会女性医師の会委員 縄田 智子

①大分県医師会について

三倉 剛 先生 (大分県医師会常任理事・女性医師の会委員)

②平成18年度調査のアンケートについて報告

小田 真理 先生 (大分県医師会女性医師の会副会長)

③女性医師の支援病院の立場

坂田 久信 先生 (大分県立病院院長・大分県医師会女性医師の会委員)

藤 富 豊 先生 (大分県厚生連鶴見病院院長)

④女性医師の立場から

平下 有香 先生 (大分大学医学部総合診療部・消化器内科)

熊木 美登里 先生 (大分大学医学部総合内科学第一・膠原病内科)

⑤大分大学のサポートについて

松浦 恵子 先生 (大分大学女性研究者サポート室長・大分大学医学部准教授)

4. 意見交換

5. 閉 会



会終了後，2階食堂でフリーディスカッションを行います。
軽食と飲み物を準備していますので是非ご参加下さい。

最初に大分県医師会常任理事で女性医師の会委員の三倉剛先生より大分県の女性医師の現状、大分県医師会の女性医師支援策として「会としての浅く広い支援—県医師会報等で受け入れ先病院の女性医師支援のための就労環境情報を提供する」「女性医師の会として個別支援をする」を説明された。

次いで小田真理副会長から平成18年度のアンケート調査について説明があった。

「女性医師の支援病院の立場として」坂田久信大分県立病院院長と藤富豊厚生連鶴見病院院長からの講演があった。

坂田院長からは県立病院の女性医師の現状（23.1%を占める）や、女性医師に対するアンケートの結果が報告された。仕事を続ける上で支障となるものは育児・自分の体力・当直などである。常勤医として仕事を続けるには妊娠中、育児中の当直免除、院内保育所、病児保育、勤務時間短縮などを希望している。

具体的に知りたいことでは産休・育休・院内保育所、日直・当直免除、研修歴、給料、相談窓口などであった。

「女性医師が働き続けるには夫と上司の理解が不可欠」で再教育の必要がある。育児休暇制度や、産休・育休中の待遇について説明があった。

今のところ、個別の対応をしているが、病院固定医師と医局人事内の医師では対応に差があることが問題になっている。

藤富院長の取り組みは「女性医師支援」とは365日24時間働いて1人前、ある時期を常勤のフレキシブル時間で働けるように、いずれは再度現場復帰にという考え方である。

子育て支援、リフレッシュ支援、じじばば支援などが考えられる。

鶴見病院の女医支援制度は①常勤フレキシブル ②週32時間労働 ③毎年更新制、全員一律年俸制である。日ごろから上司・周囲とのコミュニケーションが大事である。

「女性医師の立場から」は大分大学医学部総合診療部・消化器内科平下有香先生の体験で、産後6ヶ月休み、現在は8：30～19：00勤務で、休日出勤なし、当直免除であるが、仕事と育児のバランスに悩んでいる様子が伺えた。

さらに大分大学医学部総合内科第一・膠原病内科熊木美登里先生の発表で、先に医師としての専門性を培い、38歳で結婚・42歳で出産をしたケースである。

勤務先にはデイケアルームがあり、病児保育も可能である。仕事量・サポート・スキルアップが必要である。

最後に大分大学のサポートについて女性研究者サポート室長松浦恵子先生より説明があった。

具体的には休憩室・相談室・カウンセラーなどをおいている。

これから学部別の展開が期待されるようである。

会の終了後、食堂にて懇親会が催され、活発な意見の交換がなされた。

女子医学生用の本の紹介や学習のシステムも紹介された。

今後若い世代の輪が広がっていくと、三倉常任理事の言われるよう「浅く、広く」の医師会の方向も保たれるのではなかろうか。

松浦先生の講演に代えてパンフレットを掲載させて頂いた。

女性研究者 サポート室 “FAB” とは

大分大学の現状

大分大学は4学部(教育福祉科学部、経済学部、医学部、工学部)および5大学院研究科(教育学研究科、経済学研究科、医学系研究科、工学研究科、福祉社会科学研究科)から構成されています。平成22年5月現在、学部学生のうち女子学生の比率は39%を占めていますが、修士・博士課程での女子学生の比率は25.9%となり、女性教員においては15.6%を占めるにすぎない状況です。

この原因を探るため、平成22年2月に女性研究者を対象に「女性研究者支援に関するアンケート調査」を実施したところ、すべての回答者が女性研究者に対する研究環境整備及びキャリアアップ支援が必要だと記入しています。特に必要な支援として、環境整備では、男女を問わない育児・介護休暇取得の促進や勤務体制の柔軟化、また、研究支援に関しては、研究補助員の雇用や研究中断後の助成を求めています。

開室の背景

平成22年度の文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業に、「地域社会で育む『輝く女性研究者』支援」が採択されたことを受けて、大分大学男女共同参画推進本部を設置するとともに、室長には本学で初めて女性の学長特別補佐を任命し、女性研究者支援の取組みに本格的に着手しました。

サポート室の目的

全学部を対象とし、研究環境の整備や意識改革など、女性研究者が研究と出産・育児等の両立や、その能力を十分発揮しつつ研究活動を行える仕組みを構築することを目的とします。

名称FABについて

“FAB”とは Female Academics at Bundai です。Bundaiは、大分大学の略称“分大”のことです。また、“FAB”はfabulous(すばらしい)のダブルネーミングです。

巨野原キャンパスおよび狭間キャンパス 休憩室&相談室 開室に向けて

巨野原キャンパスおよび狭間キャンパス内において、『休憩室&相談室』の開室準備中です。開室は平成23年1月を予定しています。

休憩室は、勤務中の体調不良や妊娠・産後等で気分のすぐれない方にご利用いただけます。また、搾乳等も利用可能です。利用方法等詳細につきましては後日ホームページでご案内いたします。

さらに 研究活動を進めていく上での不安や悩み等を相談できるような相談室の体制を整えていく予定です。



▲巨野原キャンパス



▲狭間キャンパス

サポート室の業務

目的を実現するために、以下の業務を行います。

- (1) 研究助成やロールモデル誌の作成
- (2) 多様なニーズに合わせたキャリアパス支援
- (3) 男女協力体制における仕事と育児等の両立支援
- (4) 地域と連携した男女共同参画社会に向けた啓発活動
- (5) 女性研究者の増員促進と管理職への登用の促進

将来目標

男女を問わない
快適な教育研究環境の整備

活動目標

- (1) 女性教員の比率を20%に引き上げる。
- (2) 修士および博士課程学生の女性比率を35%以上にする。
- (3) 狭間キャンパスの「なかよし保育園」において、病児保育を実現する。
- (4) 巨野原キャンパスでニーズを調査し、要望があれば保育園設置のための基盤整備を行う。
- (5) 女性研究者の研究をサポートする研究補助員を配置する。
- (6) 学長裁量経費に女性枠を設け、優れた研究に対して研究費を配分する。
- (7) 毎年、女性研究者10名程度に海外での学会活動、共同研究活動を支援する。
- (8) 「女性研究者サポート室」を設置する(平成22年7月設置)
- (9) 女性研究者データベースを構築する。

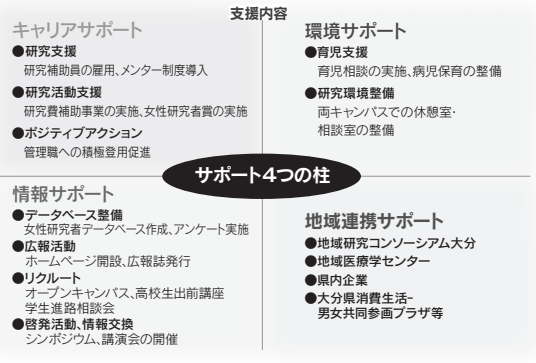
活動の紹介

女性研究者サポート室では、主に右図に示す4つの柱において活動し、本学における女性研究者の支援・育成・発展を目指しています。

女性研究者サポート室スタッフ

協力教員

狹野 千砂子	教育福祉科学部	講師
河野 伸子	教育福祉科学部	講師
安岡 正義	経済学部	教授
雲 和子	経済学部	准教授
井上 亮	医学部	教授
前田 知己	医学部	准教授
石川 雄一	工学部	教授
團井 千音	工学部	准教授
高島 拓哉	福祉社会科学部	准教授
守山 正胤	全学研究推進機構	教授
一二三 恵美	全学研究推進機構 (室長指名女性教員)	教授



女性研究者サポート室

松浦 恵子	室長 学長特別補佐 (女性研究者支援担当) 医学部 准教授
安岡 正義	副室長 経済学部 教授
安見 美代子	副室長
奥村 千晶	室員
岡本 幸恵	室員



▲女性研究者サポート室スタッフ



ホームページを開設しました

学内の研究者・職員・学生等の皆様へ、女性研究者支援に関する情報提供を行うためにホームページを11月22日に開設しました。本サイトでは女性研究者のワーク支援やライフ支援につながる情報を掲載していく予定です。ぜひ当HPにお越しください。

URL: <http://www.fab.oita-u.ac.jp>